

学校再編（学校適正配置）に向けた説明会【会議録】

1 日時

令和 5 年 7 月 26 日（水）19 時 00 分～20 時 45 分

2 場所

港中学校多目的室

3 参加者

地域・保護者等の方々 36 名

4 説明者及び関係者

【港区役所】

山口 港区長

若林 港区副区長

早川 港区役所教育担当課長

村上 港区役所協働まちづくり推進課課長代理 外 11 名

【教育委員会事務局】

笹田 総務部学校適正配置担当課長

山東 総務部学校適正配置担当課長

岡永 総務部学事課学校適正配置担当課長代理 外 3 名

【学校関係者】

校長及び教頭 6 名

5 説明会の概要

- (1) 山口 港区長よりご挨拶
- (2) 早川 港区役所教育担当課長より資料説明
- (3) 質疑応答

6 質疑応答の内容

①（市岡地域の方）30:30

- ・ 私は、港区の市岡に住んでいて、この校区とは関係ないですけど、港区のことということで、ちょっと言わせてもらいます。
- ・ 築港に住んでおられるね、小中学生のお子さんをお持ちのお母さん方、統廃合になって、もしこっち側へ、築港のこっち側、大きな橋がありますね、そこを渡って来ないといけないとかね、安全面ですごく気になると思うんですけど。

- ・ それとか、本当に少子化になっていくのにね、学校選択制にした時のことから考えてね、絶対に、東側の方が、なんかお母さん、お父さんが通勤する、あれで、連れて行けるとかそんなんで、東側の方へ学校を送り届ける人とか、いてなかったとか、そんなことを築港地域の人の流れのこととか、大阪市として、どういう取り組みをしてきたのかなと思って、すごくその辺が聞きたいんですけど。
- ・ もう選択制をやられた時ということは、もうなんか少なくなるから統廃合をしていくというのが、私たち高齢者にとっては、それが狙いやなと、ずっと思っていたのが、その通りになっているので、子どもが少なくなっても、安全面から考えたら本当に少人数学級の方がいいということが、なんでまかり通らないか。
- ・ それと築港地域の方で、保育所とかの子育て支援施設が少ないというのが、お母さん方がすごい困られているのは、ちょっとカジノの反対署名をやっておりまして、その時に一軒一軒回って聞いたんです。そういう声もありましたので、学校の空き教室なんか学童でも保育所でも使えないものかというのは、ずっと思っていました。

(早川 港区役所教育担当課長) 34:22

- ・ 初めのご質問で、築港の方から東の方に運河を渡っていく、その通学路が危険だということとで、今先ほど案の説明をさせていただいたんですけど、今検討しているのは、築港小学校についてはそのまま残して、3小を統合するという案が、港区も教育委員会の方もやっぱりここを小学生が通学するのは危険やということとで、そっちの方で進めていこうという考えを持っています。
- ・ 中学生については、その確かに危険なところがあるので、今後、どういう通学の手段を使うかということとで、まだ全然決まっていないですけど、自転車通学なんかも一つの考え方として検討していく必要もあるのかなと考えています。
- ・ あと選択制と統廃合の関係でお話があったんですけど、これは統廃合するために選択制ということではなくて、選択制によって、この港区については、それによって、こういう偏りが出てきているという現実はあるんですけど、先ほどの説明の中にもありましたとおり、港区全体が少子化が進んでいて、選択制を止めても小規模校になっているというのが、現状としてはありますので、選択制によって助けられてる方、これまで人間関係なんかで学校に行けないというような方が行くとか、そういうものもあります。
- ・ 築港地域に子育て施設とか、保護者から聞いたご意見とか、地域の方から聞いたご意見でもありましたので、今後何らかを進めていかないといけないと考えています。

② (築港地域の方) 37:08

- ・ 資料の36ページのところに、学校再編とまちづくりの関係ということで、「学校再編を機に、教育に強いまち、港区へ」と書いてるんですけども、学校再編する前に、まちづくりのことを考えるべきじゃないのかなと思うんです。
- ・ 子どもが減ってきているのに、何の対策もしなかったというところが、先ほどの方も言われていましたけども、築港地域に保育所が少ないとか、いろいろあると思うので、そういうところを考えてこなかったというのもありますし、あと病院がなくなりましたよね。弁天町の方に行ってしまったというのもあるので、やっぱり学校もちゃんとあって、病院もあって

というところに、やっぱり住みたいと思うんです。なので、そっちの方のまちづくりを先にやってほしいなと私は思いました。

- ・ それと、私も学校選択制が導入される時に、うちの子どももまだその時は小学生、中学生だったので、説明会などにも参加もさせてもらったんですけども、私は反対の立場で見ました。それで、今も導入はされてしまってるんですけども、私も、学校統廃合をするための選択制だと思っています。
- ・ 今、その築港じゃなくて、八幡屋・池島・港晴の地域から、田中小学校に通われてるお子さんもたくさんいると思うんです。そういう方の人数とかも、もしわかるようであれば教えていただきたいと思います。以上です。

(山口 港区長) 39:25

- ・ ご質問ありがとうございます。まちづくりが先、子どもを増やすのが先、もう本当にそれはおっしゃる通りだと思うんです。
- ・ ただ、本当に今の、私が去年、港区長として来たわけですけども、すでに単学級が多い状況、今からじゃあすぐに、その2クラス以上になるとか、1学年が35人超えるような状況に、この数年以内にできるかと言われるとさすがに、だいたい1小学校区に、新しいファミリー向けの住居が700戸できる、例えばタワーマンションだいたい1つ大きいのが立つぐらいなんですけれども、そういった開発が、もう予定されていれば、小規模校でもまだ複数学級になる可能性があるということで、一旦様子を見るみたいなこともあるんですけども。
- ・ まずは、中学校の状況が特に厳しいということと、小学校4つも近距離にあって、全てが短学級であり、そもそもピークの頃の、私、第二次ベビーブームですけど、最後のボリュームゾーンなんですけど、多分この年代の時から、ずっと減り続け、減り続けて、とにかくこの子どもが減っているけれども、どこかではやらなければならないくて、地域の方で10年前から、もう話はあったとか、もっと前から議論になっていたけれども、誰も決めて来れなかったんだという中で、今今の状況になってしまっているという事は、行政がお叱りを受けても仕方ない面もあるんですけども、まずは、ちょっと子どもたちの教育環境を、隣のクラスを作って、友達増やしてやりたいという思いで、今はお話をさせていただいたところです。
- ・ 同時に、やはり子どもを増やしていかないといけないのは、先ほど説明の中で、3小、3つの小学校1つにしても、何年か後にまた、3クラスになるんだけど、さらに2クラスになる。その2クラスも50人という数字です。この50人がさらに15人減ったら、また単学級になってしまうので、議論の中では、本当に中学校も小学校も、もっと大規模な再編をしておいた方が、今後の少子化に対応できるんじゃないかという声もあったんですけど、とにかく今、この案で、一生懸命まちづくりと、子どもたちを増やす、子育て世代に来てもらう、まちを一緒に作って行って、その予測を覆したいという思いはあるんです。
- ・ ですから、まちづくりをして、子どもが増えるのを待ちましょと、言っている間に、どんどん減っていく、というところを避けるためにも、まずは一旦、この案をお示させていただきました。
- ・ また、もう一つ、インフラの面でいろいろ築港の方から、本当に保育所だとか、小児科がないとか、病院の問題とか、色々聞いております。これも病院を持ってくるには、やはり採算性みたいなものがあって、民間の方がやることなんで、医師会の方に聞いてみたりとかしてはいるんですけども、私たち、引き続きそういったところも努力してまいりますので、ま

ずは一旦、子どもたちのことを考えて、再編に取り組ませていただきたいというのが、お願いということであります。

(早川 港区役所教育担当課長) 43:06

- ・ 学校選択制で、ここの校区から、ここの学校に行っている人数ということで、お問い合わせがあったんですけど、具体的な数字は、公表されていないんですけど、確かに極端なのが、港晴地域が中学校は築港中学校なんですけど、やっぱりあの運河を渡るということがあって、選択制で、港中学に行っているという、そういう数字は高くなっているということです。
- ・ 小学校についても、一部選択制で少なくなっている、多くなっているという学校は、現実的にはあります。

③ (八幡屋地域の方) 44:14

- ・ 私は歯科医師として、八幡小学校の歯科の校医をやっています。
- ・ 10年ほど前から、歯科の校医をやっているんですけども、歯科の分野で言いましたらですね、子どもの虫歯が少なくなっているというのをすごく実感して、仕事をしていただけなんですけども、小学校の校医になって検診をしたらですね、各クラスに1人もしくは2人、今自分のところの診療所では、まず目にすることがない、口の中がもう虫歯だらけの子がいてるわけなんです。
- ・ それを初めて見た時、僕は衝撃を受けたわけなんです。こんな子が今の日本にいてるというのを、八幡屋の多くで見て。
- ・ 養護の先生にお伺いすると、こういうふうなご家庭の環境なんやという。ご両親が、もうほとんど共働きで家にいてなくて、兄弟だけで生活しているみたいですか、そういうのは、ちゃんと養護の先生が把握をしてくれているわけなんです。
- ・ そういうふうなご家庭なんかとかっていうのね。それで、そういうふうな子が、歯科治療を受けに連れてきてもらえればいいんです。
- ・ 大阪市500円になったんでね、金銭的には、だいぶ楽になってきていると思うんですけども、連れてもらってもらえない、そういうふうな環境だから、やっぱり学校の検診で、そういうふうな子どもを見つけて、来るのかなと思っていたら来ないという、そういうふうな状態で、次の年の検診みたいな、また、同じような口の中で、変化がないということで、これを把握できているのは、小規模校というメリットやなど、僕これぐらいのサイズがいいなというのを自分で実感しながら校医をやっているわけなんです。
- ・ ですから、これで大きくして、目が行き届かなくなって、また校区が広がって、僕、選択制がね、僕あんまり好きじゃないんですね。
- ・ だからそういうふうな、こんな児童が発生した時に、学校の先生がちょっと離れて、学校から離れていて把握しにくい、情報を得られない、地域とのコミュニケーションが取れないような、地域から来てはった児童やったら、これ把握してもらえないんじゃないかなと、そこがすごい不安なんです。
- ・ ですから、一応、僕のした経験だけは、皆さんの知識として知っというて欲しいのは、小規模校には、そういうふうな子どもを把握できるという、すごくいい面があるという、メリッ

トがあるんやっていうことを、考えにおいたうえで、再編というのを考えていただきたいなと思います。

(山口 港区長) 47:28

- ・ 丁寧に子どもたちを見ていただいて、また次の年も気にかけていただいて、本当にありがとうございます。
- ・ 港区内の要保護児童対策地域協議会というのがありまして、家庭に課題があり、ネグレクトだったり、いろんな課題がある子どもたちというのを、区役所、学校とか、保育所と連携しながら把握をしているところです。
- ・ 私は、区内、毎月１回、実務者会議というのがありまして、その後の結果を、報告を聞いておりますので、どこの学校にどんな子がいて、どんな課題がすごく重くて、それに対してどんな対応をちゃんとしてるの、指示してるのというようなことを、言うようにしています。それは、自分が元小学校の校長で、小さい学校の校長だったから、感覚的にわかる部分が大きいから、やっているところなんです。
- ・ それで、目が行き届く、行き届かないという話なんですけれども、確かに、小規模校は、目が行き届く面もあります。
- ・ ただし、どうしても、その若い先生、担任１人で、その教室に閉じこもってしまうと、なんかやっぱり、ちょっとアンテナそんなに、子育てしたことない、若い教員が、たくさん今現場におりますので、そういった子どもの変化とか、保護者対応とかが、そんなに得意でない先生１人に、全部背負わせるというのも、リスクがあるところでもあるんです。
- ・ だから校長をやっていて、本当にずっと思っていたのは、隣のクラスに一人でいいので、先輩の先生、またベテラン、できればベテランの先生と組ませて、それで体育なんかを合同でやったりする中で、この子、ちょっとこういうところ気つけた方がいいよとか、この子のこういうところ気になるとか、友達関係や、そこちょっといじめあるんちゃうか、みたいなことを何人かの目で見るというのも、一つの目の行き届かせ方だとは思っていますので。
- ・ 私はご存じの方も多いと思うんですけれども、前５年間、生野区長をやっておりまして、その中でも、小規模校から人数増えることの懸念というのも、たくさん聞いてきましたし、実際、再編した学校も何回か行って、状況も聞かせてもらいました。
- ・ 再編した時には、教員の加配といって、教員を増やす、特別に増やすという措置があります。あとは、特にスクールカウンセラーを、常設、できるだけ毎日行ってもらうようにしております。
- ・ できるだけ、その今は、チーム学校と言って、複数の目で、そして専門家の方にも入っていただいて、子どもたちをみんなで見るというのに努めて、新しい学校になった時も努めたいというのと、一応、適正規模の学校で、実はこれ人数的に、例えば 90 人で 3 クラスとなると、１クラス 30 人で、本来の 35 人学級よりも少なかったり、後で、数字を、統合後の数字を見てクラスで割っていただいたら分かるんですけれども、意外と 20 人、25 人ぐらいの規模のクラスだったりもしますので。
- ・ 何とか、あの子どもたちに、できるだけ友達が増えた、前向きなプラス面と、その小規模の良かったところ、なんとか維持できるような工夫はしていきたいというふうには思っています。お言葉はしっかり受け止めたいと思います。ありがとうございます。

④（田中地域の方）51:07

- ・ 民間企業で講師をやっております。私は、もともと三先出身で、夕凧に住んでおります。ただし1年1クラスで、今でも38人のクラスで、いずれこちらの方にも同じ波が来るんじゃないかなというふうに危惧しています。
- ・ 先ほどの発表の36ページですね、スライドのここが全てを物語っているのかなと思っていて、話を聞いていたんですが、やはりこの3校の統廃合の前に、前は人がいてたんだから、これだけ小学校を作っているわけですから、何らかの職場環境なり、大学のキャンパス、大学のキャンパスを作るところは、なかなか難しいと思うんですけども、職場、キャンパスですね、そういうところに人が集まって、住居ができる、商業施設ができる、イオンさんなんかでもそうですけども、イオンさんができるところの周りに、マンションができますよね、その周りに病院ができる、いい循環に、はまっているところが、たくさん他の区にもあると思うんですね。
- ・ 例えば、都島で言えば、市立総合医療センターの、病院の周りにマンションができる、ああいう感じの循環に、はまってもらったら、こういう問題というのは防げるんじゃないかなというふうに思います。
- ・ だから一つのきっかけが、せっかく私ずっと港区で生まれ育っているので、もっとよくなってほしいので、正直なところですけども、これだけ空港も関西空港に、伊丹、神戸と、高速道路で30分でいける、しかも北も南も15分ぐらいで行けますよね。
- ・ これだけいいところなのに、しかも3%と、西区よりも上がっているにもかかわらず、もう小学校廃校で、地域によって一番痛いことです。
- ・ これだけ小学校は6年、中学校3年、9年間もあって、これだけの時間を費やすにもかかわらず、まあ対策が遅れているのがちょっと残念だなとは思ってます。
- ・ 具体的な対策で、聞いていて思ったのが、天保山の運河、これ費用だいぶかかると思うんですけども、埋め立てとか、考えたことないのかどうかということですね。
- ・ 港区には天保山運河と43号線、この2つで分断されているような感じのところがあるんですね。この2つの分断をなくすのには、43号線の地下とかの、まああれですね。
- ・ 埋め立てとか、埋め立てたところに土地ができますよね、そういったところに、マンション立てる、商業施設を建てるとか安全の問題とかも解消されるので、まあ、そういった斬新なことを考えていく。
- ・ 他の地域でも、こういう運河みたいなのが、周りに要る目的は、そんなにまあはっきりしていなければ埋め立てしてしまうのも一つの手かなと思います。
- ・ その一つの手で、小学校の廃校も防げる可能性が出てくるので、まあ、そういった試算をされているのであれば、ちょっと教えてほしいんですけども、一応、その天保山の中のことであれば、その点ですね、天保山運河の埋め立て、そういう考えがあったかどうかということ、ちょっとお伺いしたいです。

（山口 港区長）55:16

- ・ ご質問ありがとうございます。天保山の運河の埋め立てという話は、多分今までになかったかとは思いますが。ただ、三十間堀川の埋め立てについては、今、市会で議論をなされていて、今後検討するということにはなっているんです。

- ・ それも何しても、私 24 区の区長のうちの 1 人で、行政区の区長として、そういった、たぶん、もう億で済まないお金、埋め立てとなると、やっぱり、あのそういったすごい金額の開発というのが、やはりオール大阪で考えていくものになりまして、私、前の生野区長の時も、本当に全く同じ議論もしてきたんですけども、なかなか例えば、開発の順番でいくと、うめきた開発して、阿倍野は再開発をだいたい昔にやっていて、生野は何もないんですよ。
- ・ 鶴橋もずっと木造密集で、いつ火事が起きたら危ないような状況でも、なかなか再開発が進まない、それで、子ども減ったやないか、どうしてくれんねんと言われて、そこに権限があれば、もうなんか私が今からでも予算取ってきて開発しますと、本当に言いたいところなんですけれども。
- ・ ただ開発というのは、やはりその立ち退きだったりとか、いろんな特にあの運河は港湾局が管理しているところなので、区役所の一存では当然決まりませんし、やはり、あのここは民主主義ではありますので、政治の流れというのもきっとあると思うんです。
- ・ ただ、今そうですね、あの弁天町の再開発というわけではないんですけども、万博に向けて活性化であったり、天保山の方も、天保山ターミナルというクルーズ船が止まるターミナルの建て替えが進んでいるところで、これからもう一つ観光の要だったり、国際の交流の拠点というところで、復活させていかないといけないというふうには思っています。
- ・ 特にこのエリアはですね、やはりもう市営住宅が、これもだいたい市営住宅の担当者呼んで話も聞いて、まち歩きもして、聞いてたんですけども、基本的にはやっぱり、国の補助金でできているルールのもとで、できているものなので、前に入ってる住民の方が住み続ける、建て替えて新しくなっても前の方が入る、また、建て替えが予定されている人たちが入るとこ開けておかねばならない。
- ・ それで、じゃあ建て替えました、今解体やっています、解体をやって空いた土地を、まあその売却して、どこかマンション、ファミリー向けのマンションを建てていただいて、そこにたくさん、この子育て世代が来るというのに、たぶん一番短く見積もっても、10 年ぐらいかかると思うんです。もっと頑張ったら 8 年ぐらいでいけるかもしれないですが。
- ・ 実は、今回、学校再編の説明会させていただいている理由の一つに、以前であれば、計画作るのにだいたい 1 年、その後、計画できて初めて予算が取れます、設計の予算が取れます。設計で前だったら 1 年、そして工事でだいたい 2 年、長くても 3 年、工事の内容にもよるんですけども。
- ・ だから、この 1 年生の 9 人女子 1 人という子が、卒業するのにギリギリ間に合うぐらいで、5 年生になるぐらいで、再編ができたんですけども、今、ご存知のとおり、あの万博の会場でも、パビリオンが立たない、要はもう人材が足りない、そして、いろんな工事が、2024 年問題というのがありまして、働き方改革で土日に工事ができなくなるので工期が大変伸びるということで、小学校も今から話し合っても、今年度、計画が決まって予算取っても、令和 11 年というような状況になってしまうという、ですから、開発もやりたい、もちろんマンション建てるように、めっちゃ頑張りたいですし、みなと中央病院の周辺跡地のところでも、何かしら、ほんと次の展開があるように、もう今すぐでも本当に何か建ってほしいと思います。
- ・ ものすごくあるんですけども、そういった事情もあるということも、知っておいてもらえたらと思います。ただ、あのまちを悪くしようと思って、私たち言うていてわけではないんです。また、地域の方は、本当に小学校なくなったら、どうなるとかね、その不安なお気持ちはあると思うんですけど、さっきも、あの人口の子どもの減り具合と、やっぱりどう考

えても増えたから作ったが、こんなに近くに学校があるのに、びっくりしたんですけど、増えたので必要だから学校を作りました。

- ・ それでやっぱり子どもの数がその時よりも、もう 1/6 になった中で、何かを考えなければいけないという状況だっていることは、本当にね、この 10 年、20 年、もっとやれることあったらというお叱りも、十分受け止めながら、ご理解いただけたらと思います。
- ・ もう一つお願いがあります。お子さん世代とか、お孫さん世代ですね、ここにいらっしゃる、もうできれば、もう地元に戻って、今は戸建てがどんどん建て替わってしまっていて、いい感じの可愛い戸建て、たくさんできてきています。たしかに、学校再編を止めるほどの力はないんですけども、それでも 1 人でも 2 人でも、お子さん、お孫さんが、帰ってきて、ここで子育てしたいというまちに、やっぱり、一緒にしていかなければならないと思っていますので、ぜひともご近所の方にも、伝えていただければと思います。すみません。

⑤（八幡屋地域の方）1:01:20

- ・ はい、こんばんは、八幡屋です。八幡屋小学校、来年で 100 周年を迎えます。100 周年、100 年の間に、いろいろと経験してきました。災害もあり、地上げもあって、5m ほど上げ、そういうことも経験して、やっと 100 周年。それで、今回これで、3 校合同ということになって、名称も変わるんですね。新しい名称になるんですね。

（早川 港区役所教育担当課長）1:01:56

- ・ 今後、検討会議というのを立ち上げて、そこで話し合って決めていくということになります。

⑤（八幡屋地域の方）1:02:05

- ・ まだ名称は変わるとか、それは決定していない？

（早川・港区役所教育担当課長）1:02:09

- ・ もしも 3 校が一緒になったとしたら、その 3 校の地域とか、PTA の方でお話し合いをして決めていくということになります。

⑤（八幡屋地域の方）1:02:21

- ・ わかりました。私たちは、八幡屋という名前を消したくないなとは思っているんですけど、やっぱり港晴さん、池島の方とも、今の方でも、やっぱり自分の小学校、消えてほしくないということもあると思います。そういう時に、また検討してもらいたいと思います。
- ・ それと、今言われた市営住宅の建て替えの件なんですけど、ものすごい、これがチャンスの時だと思います。いろんなところが変わっていく、本当にチャンスになると思うので、これを区役所、区長さんを先頭に、いろいろと提案を、大阪市に提案をしていただきたいのと、これからまた、災害の時の避難所とか、いろいろなことが、小学校単位で、すごく重要な視点で、これからちゃんとやっていってほしい、それが私たちの望みです。

・

(山口 港区長) 1:03:27

- ・ ご意見ありがとうございます。また、市営住宅の話をたくさん、この間もいろんな地域からもいただきましたので、機会を見つけて、市営住宅の担当とかも、一緒になった意見交換ができたと思っています。引き続きよろしく願っています。

⑥ (八幡屋地域の方) 1:04:10

- ・ すいません、八幡屋です。私たち子育て世代は、やっぱり家から通える距離にある学校を、基本として家を借りたり、家を購入したりするんですね、やっぱり、子どもが港晴の4丁目から八幡屋まで通うと思ったら、10分で通えませんか、港晴小学校だから10分で通えます、というのが基本的だと思うんですよ、家を選ぶとか。
- ・ 人を増やすということをおっしゃっていましたが、それがあってのたぶん、子育て世代が増える要素だと思うんですよ。
- ・ これだけ小学校のある区って、私いろんなところと、PTAの関係でお話しさせてもらうけど、港区めっちゃめっちゃ多いです。11小5中あるので、西区はあれだけマンモスでも、3中7小かな、しかないんでね、だからすごい、いいなと思っています。
- ・ あともう一つ気になるのは、再編後の学校の魅力化案で、統合後の学校では再編インセンティブの活用っていうのがあって、なぜ統合しないとこれが活用できないのかというのが、ちょっと意味がわからない。
- ・ 今これを活用していただけたら、うちの学校にはこういうことがあるんだよ、こういう魅力があるんだよという発信もできます。保護者間で。そういうことも、もうちょっとご検討いただければと思います。

(山口 港区長) 1:05:55

- ・ 教育委員会が来ていますので、各学校の戦略予算とか、その各学校の個性を出していくみたいなのところの取り組みでされていることが、喋れるのは誰ですか。
- ・ まあいいや、私が喋ります。まず再編インセンティブというものは、やはり今、自治体財政は、その100%余裕があって困らないという状態では全くない中で、各学校、人員を配置してやっているというのが現状です。
- ・ 学校再編をすることによって、ある程度、その教員の数であったり、運営費の部分というのを、本来であれば、言ったら大阪市の税にされてしまう、大阪市の別に使ってしまうところを、いやいや、これはやっぱり新しい学校になるんだから、そこは教育にしっかり使って新しい学校を良い学校にするために使いましょうということで、やはり再編すると、前の段階でも、いろいろと引っ越しの段取りだとか、いろいろ子どもたちのメンタルの不安とか、そういうところにも、いっぱい配慮しないといけないので、再編の前に、加配を入れて、そして再編をして、その後も引き続きその何年間か、再編加配をするというのが一つのやり方です。
- ・ 実際にどんな学校にしていこう、2つの学校なら2つの学校、3つの学校や3つの学校の歴史とか、それぞれ大事にしてきた教育目標というのがありますので、そういったものを、校長先生方、また教職員同士で話し合っていていただいて、こんな学校にしたいから、図書館をもっと整理したりだとか、ICTに力を入れたりとか、というような方針に基づいて、そのお金を使ってやるんですけれども、今今一応、全ての小学校は、昔に比べて小学校、中学校

は、ある程度、校長の裁量の予算もあって、各自いろいろ取り組みをやってはいただいています。

- ・ たぶんご存知だと思いますけど、運営の計画というものがあまして、そういった流れが、私も民間人校長となった年ぐらいから、そういった校長経営戦略予算みたいなものができたりして、どんどん発信するようになって、それで発信もしてきたところです。
- ・ それでも少子化の波に対して、どうしても減ってしまうという学校、すごい素敵な学校、もう皆さん本当に努力していただいている校長先生なんですけれども、そういう現状があるというのは、まず知っておいていただきたい。
- ・ そうですね、住宅の問題、家から10分、これもまた言うたら怒られそうなんです、あんまり言いたくはないんですけど、一応、やっぱり私も、子どもが小学校5年生ですし、もちろん、小さい時とかに、家からだいたいそうですね、10分はかかるか、かからないかぐらいのところにおりますけれども、大阪市のルールとして2キロかな、一応、通学範囲というのは2キロまでが適正というか、通える距離であるというふうに小学校はされています。
- ・ それで中学校は、3キロというのがルールになっています。
- ・ それを超えた再編になった時に、定期代だとか、ちょっと、そういった補助が出るというのが一定ルールにはなっているので、これ、実は文科省というか、国は、もう1キロずつ多いとか地方によっては、もっと多い距離になったりするので。
- ・ これはまた、今後の議論になっていくと思うんですけれども、通学のあり方、本当に、あのスクールバス、どんどん走らした方がいいんじゃないとか、この暑いとか、いろんなそういう議論もあれば、やはりあの財源の問題、それがちょっと厳しいだろうという話もあったり、他都市に比べたら十分近いじゃないとか、大阪市内でも結構遠いところ、通っている子もいるみたいな、いろんな議論があって、なかなかこれは、もう本当に個々のお家の方が近いから選んだんだ、家を買ったのと言って怒られることが、生野区の時も学校再編やっていますので、たくさん言われてきたんですけれども、もう、そこに対しては、申し訳ないというか、できる限りのことをするしかないという思いでいます。
- ・ それで、すごいなんかちょっと中途半端に自分も子どもがいるだけにお気持ちはよくわかるので、ありがとうございます。

⑦（八幡屋地域の方）1:10:37

- ・ 八幡屋に住んでいる者ですけれども、やっぱり、何人か言っていましたけど、その選択制を導入する時点で、こういう状況が起きるということは分かってましたよね。
- ・ 分かっている、選択制にしたわけですよ。それに対しての、もしかしてそういうことが起こるかもしれない、統廃合しなければならない状況が起きるかもしれないことに対して、ちゃんと手を打ってないというのは、すごく思います。
- ・ 少子化の原因について、先生のなり手が今なくて、その先生の構成がおかしなことになっていることについて、いじめが起きることについて、どのようにお考えでしょうか。

（早川 港区役所教育担当課長）1:11:32

- ・ まず選択制で統廃合が必要になっているんじゃないかというご質問なんですけど、今、選択制がなくても、もう各学校が少なくなっているというのが状況としてあって、特に西側の地域についてはということになってます。
- ・ 決して統廃合するために選択制の制度ができたというわけではありませんので、そこはご理解いただきたいと思います。

(山口 港区長)

- ・ すみません、もう一つ後半に言っていたこと、もう一度お願いします。

⑦ (八幡屋地域の方) 1:12:15

- ・ 少子化の原因について、どう思われるか。
- ・ 先生のなり手がいないとか、構成がおかしくなっている原因と、あと、いじめが起こる原因については、どうお考えでしょうか。

(山口 港区長) 1:12:26

- ・ わかりました。少子化については、何だったかな、最近ちょっといい本が出ていて、厚労省の元幹部が書いた本なんですけども、実際になぜ少子化になったかというところ、これ報道でも結構言われているんですけども、もう、そもそも母親になるボリュームゾーンが、もう子どもを産めない年齢になっているからです。
- ・ 私も、今年 50 になりますけれども、1973 年生まれです。子どもギリギリ 39 歳と 35 歳ぐらいで産みましたけれども、本当にギリギリのところ、やっぱり、このボリュームゾーンの生活が苦しいとか、氷河期に差しかかってきて、また働きながら、子どもを育てる環境になかったっていうことに対して、もうこれはちょっと個人的な思いもあるんですけども、異次元の少子化対策をやるんだったら、20 年前にやってほしかったというのが本当の思いです。
- ・ それであれば、今こんなに子どもが減っているということはない、まあ、少しは、もうちょっとましな状況だったとは思っています。
- ・ あとですね、今後もこの少子化、実はコロナで出生率が下がった、それで、これから異次元の少子化対策というのをやっていって、じゃあどこまで増えるのかというと、たぶん 20 年後ぐらいに下げ止まるぐらいのものなんです、効果としては。それでも、今やっておかなければ、また 20 年後、さらにどんどん、どんどん減っていくというところがあるので、今、ああいった取り組みを始めているところです。
- ・ それで、港区としても、そんなに予算が 24 区の 1 区ですので、めちゃくちゃあるわけではないんですけども、少しでも子育てしやすいまち、待機児童対策だとか、そういったところは、一生懸命やってはきているところと、先ほどあったような、そのちょっと虐待、困難を抱える家庭が、わりに多いまちであります。
- ・ そういった子どもたちを早く発見し、できるだけ支援につなぐ、早期に支援につなぐことによって、重大な虐待事案が発生しないように努めてはいるところです。
- ・ 教員のなり手が少ないに関しては、いろんな本が出ていますけれども、一つにはやはりだいたい報道とかでもブラックと、ブラックな職業と言われており、私も民間人から小学校の校長になってびっくりしたのが、朝、子どもが学校に来るのは、そうですね、8 時半までに登

校すれば良いと、教員の出勤時間も８時半なんですけれども、子どもら８時１０分ぐらいには来るんですよね、そうすると、もう８時にサービス前倒しのサービス残業みたいな感じで来る。

- ・ それで、朝から、まあ、ずっと１日、一人担任だとほんまかわいそうなんが、理科の実験の準備も家庭科も全部自分でやらないといけない。
- ・ 校長時代、少しでもそれを助けようと思って、家庭科だけ他の先生にとってもらうとか、音楽だけにとってもらうとかというのは、いろんなことやってたんですが、とにかく給食の時間も指導時間で休憩時間ではない。それで、放課後になると、やっぱりいろいろ保護者の方の要望もありますので、そういった対応も夜になることもあり、非常に教員の働き方改革というのはやっと、やっとです。
- ・ それで、この５、６年かなり言われるようになりました。そういった中で、教員という仕事の魅力が、あるんだけど、どっちかっていうと、ネガティブな部分が、特にインターネット、Twitter、SNSとかで発信されるようになっていき、ちょっと若い人が敬遠する職業になったというのと、そもそも若い働き手が、どの業界も減ってきているというところもあります。
- ・ いじめに関してなんですけれども、いじめについては、大阪市も相当力を入れて、今までこの特に１０年ぐらいは働きかけをいろいろしているところです。
- ・ それで、今は、いじめの定義は、目に見えてわかるようないじめだけではなく、いじめられた子が、自分が嫌なことを言われた、いじめられたと思ったら、そこでいじめとして認定しますので、一定数が、ものすごく増えてはいるんですけども、早めに見つけて、早めに対処する、そういった取り組みは、各学校でしっかりやっていただいています。

⑦（八幡屋地域の方）１：１７：０２

- ・ 少子化の原因で、そのおっしゃっているように、貧困というのがあると思うんですけど、さっき、いじめに関しても、そのいじめを発見するようにはおっしゃるけど、起こらないようにすることが大事だと思うんですが、そちらの方にできていないと思うんですね。
- ・ 先生のなり手がない意見に関しても、やっぱり先生が、のびのびと教育できるような環境ができていない、その教育委員会の状況があると思うんですね。
- ・ そういうところを、まず対策しないで起こりうる、何かこの先こうなるというふうにもう決めつけて、そのそうならないような対策を行っていないというのは、今の国や、その行政の状況じゃないかと私は思っているんで、そもそもちょっとおかしいと、もう、このこともおかしいと思います。
- ・ 今まで、じゃあ何をやってたのでしょうかという、やってるやってると言うけど、結局、こうなってるというのは、もうやってないというのと一緒じゃないかなと思うんですけど、国がちゃんとしてくれないんだったら、大阪府や大阪市が、もうちょっと力を入れなきゃいけないと思うんですよ、それに代わってね、貧困とかそういうことのご家庭にもちょっと支援ができるような、そういう子育てに優しい、そのお金の配分というのね、やるべきだと思うんですね。
- ・ カジノとかね、IRがどうのこうのと、言っていますけど、そんなもの必要ないと思うんですよ。そういうところに使わずに、私たち生きている、その未来ある子どもたちに、お金を使う、生きているその人々、生業とかもそうですけど、お年寄りの方までちゃんと行き届く

ような、皆さんが生き生きと暮らして、そのもうちょっとね、地域が活性化できるような働きかけが、本当の必要なことじゃないかなと思うので、そもそも、これおかしいと思って聞いています。

(山口 港区長) 1:19:11

- ・ ご意見ありがとうございます。一つだけお願いしたいんですけども、私は生野区で、こういう話し合いを、たくさん、たくさん重ねてくる中で、政治的また政策的な、それぞれの主張、思いというのは、きっとあると思うんですが、一旦やっぱ、ちょっと子どものことと、この地域のことに、話をというか、それしか今、港区長ですので、それしか答えられない面もあるので、お気持ちは十分あのお伝えはしますが、そういった場であるということ、ちょっとご理解いただけたらなというふうに思います。
- ・ 大きな政策については、1個だけ言えるのは、私、ほんと民間から教育現場に来て、その前は教育ジャーナリストとして、いろんな自治体の教育について執筆とか、取材をしていたんですけども、大阪市は、この10年ものすごい金額を、やはり教育、学校数が多いんです。とにかくもう、再編をやるべき30年前とかに計画的にやっていないので、無茶苦茶、学校数が多い中で、かなり頑張って、教育に投資をしていると思います。
- ・ その中学校が給食になっていることとか、何とか頑張って、こどもサポートネットという子どもの貧困対策にあたる、要は、子どもの家庭がしんどいというのを、見極めて、学校を回って、それは今までやったら、学校の先生、全部こうたまたま気づいたら、ラッキーぐらいな感じの話を、しっかりとスクールソーシャルワーカーとかと連携しながら、早めに予防するというための人員を、ものすごい金額で打っていたり、保育所や、今日もその会議が朝あったんですけども、保育所を増やすために、いろんな施策は打っていますので、足りないと思われる、やっぱり広く薄くなって、大都市のしんどさだと思うんですけど、本当にこの10年、子ども、教育の分野に関して、これだけ投資をしている自治体というのは、結構、私は少ないと思って見ていました。
- ・ それは、教育委員会にも1年だけおりましたので、感じてはいるところです。ただ、伝えるのが、本当に、本当に下手くそで、全く伝わっていない面もありますし、また、私たちが、まだもちろん見えてない部分もあると思いますので、こういった、ここで困ってる子がいるよ、どうなってんのというのは、本当に言ってもらえたらなと思っています。

⑧ (池島地域の方) 1:21:44

- ・ すいません、池島です。池島の方、誰も大人しいので、言わないので、ちょっと言おうかなと思ったんですけど、すいません、あの座ったままで、ちょっと緊張しいなので。
- ・ まず、この説明会なんですけど、この説明をするという時点で、もう決まっていますよね。皆さんが結構ご意見いろいろ言って、基本的にも選択制もそうですけど、この統合ですね、それを今、私が聞く限りで、皆さん反対していると思うんですね、その中でも決まてますよねというのが、もう率直な意見。
- ・ 中学で言ったら、築年数の関係で、港中と言っていましたけど、それで言ったら、池島が一番新しいはずなんです。八幡屋さん、100年と言っていましたけど、それで、私は、その生まれも育ちも、もう池島なので、ずっと池島に行ってるんです、それで2期生なんです。

もうたった一つの校舎しかなく、プールもなく、遊具も何もないような状態から、始めてるんですね。

- ・ 言ったら、もう純粋にです、純粋に、その小学校がなくなるというのが、もう、ただただ嫌なんですよ。
- ・ そういう意味でも反対ですし、あの福祉体験学習というのをやっておりまして、今、たぶん、どこの地域もやってるんですけど、池島小学校は、もともと障がい児とかも、最初に受け入れていたので、本当に車椅子であったりとかも、フルで車いす体験ができるような作りになっているといえますか、本当に校長先生のおかげもあるんですけども、全部使っていていいよ、どこでもやってくれていいよ、みたいな感じでやらせていただいて、本当にフルで、すごくいい体験もできてるんですね。
- ・ それで確かに、その八幡屋や、港晴の子たちが、池島に、一番へりですよ、川沿いなので、そこまで来るとなると絶対遠いと思いますし、でも、かと言って、うちから、それこそ八幡屋さんへ行くのも、やっぱり遠い子もいてるし、港晴さんからも遠いと思うんですね。
- ・ 基本的に、本当になぜこの統合という、意見交換会が過去にあったのか説明会がもっとあったのか、私、今回初めてちょっと教えていただいて、来さしてもらったんですけど、決まったこと、住宅の建て替えの時もそうなんですけど、決まったことを今、意見を色々聞いていただいていて、区長、答えてはりますけども、結局はご了承ください、ご理解ください、というところで収まると思うんですね。
- ・ だから結局、少しぐらいは、そのこういった意見を反映していただけるのかどうかというのが、やっぱり一番肝心というか、何のために、じゃあ私たち来たのと、決まったことをただ言われているだけ、選択制の時もそうなんですよね、もう気づいたら決まっていました。
- ・ それで実際、その選択制がなければ、本当にもっとあったと思う。私、選択制もたしかに反対でした。
- ・ ただ、ただです。うちの子どもの友達ですけれども、引っ越ししたから、ちょっと違う地域に行きました。ところが、そこでいじめにあったんですね。
- ・ それで、結局いじめにあったから、中学校の時なんですけど、小学校でいじめにあって、結局みんな知っているからというので、港中が受け入れてくれたことで、港中に途中で編入してきたんですね。そういうことを選択というか逃げ場を作る、そういうこと、いじめの話なんですけど、逃げ場を作るという意味では、ありかなと思うんですけど。
- ・ 初めからとなると、やっぱり、ここ幼稚園に行ってたから、その学校に行きたいとか結構、聞くとそうなんですよね。
- ・ だから、うち池島がその少なくなると、うち保育所も保育園もせっかくあるのに、結局、その他のところの地域の幼稚園に行ってたから、みんな友達そこやから、そっちに行くねんという子たち、親たちがやっぱり多いので、なんかそれもちょっと残念やなど、やっぱり思いますし、なんか、あのご意見、たぶん、色々あるとは思いますが、基本的には、本当に冗談抜きで、池島小学校がなくなることが、ただただ反対なので、それだけは、ちょっと聞いといっていたらなと思います。お返事に困るかと思いますが。以上です。

(早川 港区役所教育担当課長) 1:26:03

- ・ 今、反対というご意見あったんですけど、小学校については、この統廃合、再編整備、条例がありまして、小規模は、一番初めにご説明もしましたとおり、条例でやらなければなら

ないということになっているので、それで、どういう案があるかということで、今回案を示させていただいて、その中で今、教育委員会と港区で考えているのは、こういう案がいいんじゃないかということで、ただ、今日これで終わりというわけではなしに、またこれからもご意見伺って、お話し合いさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

⑨（池島地域の方）1:27:01

- ・ 池島に住んでいるものです。私は、もともと弁天地区だったんです。私が生まれ育ったのは。それで、結婚して帰ってきまして、池島に来ました。
- ・ その時、娘が小学校だったので、池島小学校、それから港中学校を経て、もう40近くになるんですね、娘はね、横浜の方に嫁いで、横浜にいてるんですけども。
- ・ この資料で言うと36ページ。皆さん、たくさんおっしゃってると思うんですが、市営住宅住民の高齢化がとてつもない。
- ・ 今、現在も、私も住んでるんですね、建て替えをしていただいて、新しいところで過ごさせていただいて、とってもいい思いをさせていただいてるんですけども、住んでるものしか行けないんですよ。今建て替えているのは。ということは、町は繁栄しないんですよ、高齢化するのに、高齢化をストップするために、市営住宅もきれいになって、新しい人が入ってくればいいんですけど、現住民しか入れないんですよ。
- ・ 新築になって、空き家申請ができるのが5年以降ですよ。それで、今、現在、私が住んでいる市営住宅は、もう、ほとんど高齢者です。子どもの小学生がいてるのが10世帯あるかないかです。こういうやり方をすると、まちはやっぱり寂しくなりますよね。子どももいなくなりますよね。
- ・ 市営住宅の跡地を、民間に売ってマンションにする、それもいい方法かもしれませんが、市営住宅を建てる時に新しい世代が入るように、なぜ交渉していただけないのかが、とっても残念です。じゃないと新しい世代は入ってきませんし、子育て世帯も入ってきません。それで、全て新しくなったとしても、高齢者ばかりになります。
- ・ このことを大阪市もそうですし、港区の区長さんもそうですし、どうしてそういう意見が出てこないのか、それがとっても不安です。
- ・ それで、今現在、住んでいる者としても、高齢者がたくさんいてるので、高齢者が悪いわけではないんですよ。ですけども、やっぱり若い世代が入らないと、まちは繁栄しません。小学校も中学校もやっぱり小さくなっていきます。
- ・ 娘も、この港中学校を卒業しました。とっても楽しい時間を過ごしましたし、しんどい時期もあったかと思います。ですけど、今の現状ではなかったです。
- ・ もっともっと早くに、手を打っていただけたらなということと、これもこれからでも遅くないと思うので、もっともっと早くに、皆さんの知恵をいただいて、港区を、この4小学校が反映できるように、お力添えいただきたいなと思います。以上です

（山口 港区長）1:30:01

- ・ ご意見ありがとうございます。私も当然、市営住宅の担当者には、なんで、こんなきれいなのに、そもそも子育て世代が入れるような間取りになってないところも多い、やっぱり元の住民の数、元の部屋のそれで作るのが基本であると、国のいろいろ説明を、私も、そのま

あ受けたんで、でも、とにかくそういう空く状況になったら、子育て世代、優先的に、ただ今、新築には入れられないんだということは、何度も、私も結構嫌がられるぐらい言うてはいるんですけども。

- ・ でもやっぱり、こういう声も多いから、地元に来て、説明を、自分たちの口からしてくれないかという願いはしました。
- ・ オール大阪的な話とか、大阪市全体の教育のルールとか、やり方、選択制も含めて、いろいろあると思うんですけども、教育委員会、そのあたりは、何のために選択制を入れてというところを、もう 1 回説明をしていただけないでしょうか。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 1:31:25

- ・ 学校選択制につきましてはですね。まずは子どもさん、保護者の方も含めて学校を選択できること、開かれた学校づくりを推進するといった観点から、平成 26 年度から導入をしているものになります。
- ・ どういった観点から入れられたかという、子どもや保護者の希望に基づいて、就学する学校を選ぶようにというようなことが、一番大きい観点だったかと考えています。
- ・ その当時、子どもや保護者の方々の意向に添えていくというような必要があると考えまして、学校を選ぶことができるということ、それから子どもや保護者の方々が学校教育に深い関心を持っていただくという、事前に今、学校選択のために、その情報として学校案内というものを皆様にお配りをしています。
- ・ そういったものを見ていただいて、自分の行きたい学校、行く学校というのを選ぶようにする、というのが学校の特色であるとか、情報とかそういったことを事前に見ていただいて、自ら選んでいただくというようなこと、それから学校の特色ある学校づくりというものを進めていく。それから学校の情報を公開するという、開かれた学校づくりを進めていくといったようなことを目的として入れられたものになります。
- ・ もちろん地域の学校を選ぶということも含めて選択の一つですし、いろんな理由から主体的に、ほかの学校を選ばれるというようなケースもありますし、そういった観点のもとで選択制というのは導入されているということです。
- ・ こちらの資料の方にも書かせていただいているんですけども、制度を導入して、数年が経って、ちょうど選択制を利用して入学した子どもさんたちが、ちょうど卒業を迎える、ちょうど選択制で入った子どもさんが卒業を迎える時期に入りましたので、令和 2 年だったか、3 年だったか、その辺りの時に保護者に対して、学校選択制の検証をやっていくためにアンケートの結果を取っているものを、こちらの参考資料の方にお付けさせていただいています。
- ・ 選択制について、保護者の方、それから学校協議会の方々が、どう受け止めているかというところで、もちろん良い制度だと思わないというようなご意見もありますけれども、約 7 割の方々が良い制度だと思うというふうに言っているというふうなところで、一定、多くの保護者の方から、良い制度であるというふうに評価をしていただいているというふうに考えております。
- ・ 先ほど区長からもお話ありましたけれども、現状のニーズを踏まえて、選択制によって選べて良かった、あるいは先ほども、ちょっとお話ありましたけれども、選択制によって学校を選ぶことができ救われている人がいてというようなことも含めて、やはり学校を選択

するという権利と言いますか、そういうことを考慮して、この制度というのは、今後も維持していこうということで、大阪市として思っています。

- ・ ただ、今お話があったように、児童数が減っているとか、そういったことで課題ということもあるのは確かです。だからその上で課題をどうやって改善していくのかとか、選択制の細かい例えば制度のところについては、各区の実情に合わせてやっているという部分もありますので、そのあたりで例えばこういった工夫ができるのかとか、そういったことで改善していくべきところは改善していくというようなことで、今後もこの制度を進めていくことと考えております。以上です。

(山口 港区長) 1:36:25

- ・ あの先ほどもですが、本当に、いろんな方のいろんな思いがあるんです。この声だけでもないと思いますし、どこで意見交換してたんやという話もありました。PTAの方で役員の方とか、地域も、そのそれぞれの地域の代表の方をお願いして集めていただいたり、町会長会議に寄せていただいたケースもあります。そこでもいろんな声をいただいてきました。
- ・ それで、まず本当に市営住宅問題とか、まちづくりの課題と、あとある地域で、やっぱちょっと言われたんですけど、若い方がその場では意見おっしゃらなかった。帰り際に、もっと子どもの話をしてくれると思ってたのに、みたいなことを言われまして、やはり、これ公教育なんです。税金で運営する公教育として、まず子どもたちをどうしていくかで、私も小規模校の、校長やっていて、個々のケースというのは、どんな学校にも、当然、大規模校の小学校の校長同士の仲間が、いっぱいいっぱいいるわけですけど、お互いの学校の話をよくするんですね。
- ・ 大規模校は大規模校の悩みがあり、小規模は小規模、適正規模であっても、地域によっても全然悩み事が違ったりとか、そういった課題は、どこの学校にもありまして、それを今、教育委員会、区も一緒になって、なんとか子どもたちを1人も取りこぼさないように、学校運営をしようというところは頑張っているところなんです。
- ・ そんな中で、クラス替えができない状況を、国も方針として、また大阪市も方針として、やはりせめてクラス替えができる規模にするべきであるということが、令和2年に条例で決まっている。これに対して、「区長、そんな、上の言うこと聞いてんと、俺らの声聞いてやと、そんな反抗して、せえへんかったらええやん」というのは、言われたらそうなのかもしれないですけど、じゃあここで何もせず、何もせず、このまま成り行きを見ましようかと言っても、劇的に何年か以内に、2クラスになる学校、それが一つ出たとしてもいいです、例えば2つ、4つの今、対象校のうちに、2つの学級が増えて、2学年2学級になりましたといっても、残りの学校の単学級が解消しない。
- ・ そういった中で、また、どんどん減っていくというところを何とかしなければと思って、今回、一旦案をお示したというところなんです。
- ・ 案をお示して、初めて皆さんきっと、本気で、もっとあの時こうしといたら良かったも含めてですよ、もっと、市営住宅問題もそうなんですけど、みんなずっとずっと、どっかで課題やとか、あとはよく聞くんですけど、「運動会が可哀想で見てられへんから、早くしたってくれ」という声も聞くんです。
- ・ 「たくさん子ども、もっとおったのに昔、こんだけしかいないの」というびっくりされる地域の方の声もあるし、それが、だから今ここで聞く声だけでなく、いろんな声も聞くんだけど、やはり文科省、そして大阪市教育委員会、大阪市そのものも自治体としての方

針がある中で、大阪市としては、離島とかではね、小さい学校、何とか維持するような話とか、スクールバスを走らせて、なんとか小さい学校を守っているような、そういう地域もあるは、あるんですけども、大阪市としては、やはり通える範囲にある学校を、適正規模にして、そしてその分、良い学校にして、子どもたちにしっかり力をつけてあげようというのが、今の方針であるということ、それに基づいて、私たちも、なんかどうしても行政対みたいな、こう勝ち負けみたいな感じになったりとか、すごくそれが嫌なんですけれども。

- ・ とりあえず行政が、今の状況を踏まえて、教育委員会と区役所が一生懸命、まあ、子どもたちのため、もちろん学校にも意見を聞いています。まずは、学校現場の声、大事なので、校長先生方とも意見交換しながら、ただやっぱり、校長先生方、基本的に自分の預かった学校を一人も取りこぼさず運営するのがお仕事ですので、私もそうでしたし、一生懸命やっていただいて、そういったこれから先の議論は私たちしっかり引き受けながら、考えていかなければならないと思っています。
- ・ だから変わる可能性があるのかと言われたら、まあ、よっぱどの声の中で、じゃあ、もうちょっと議論しましょうかと伸ばすのは、たぶんできるかもしれない。
- ・ ただ、中学校だけは、申し訳ないけれども、やっぱり、9月ぐらいに説明会をしなければならないんです。学校選択制の。それで今度、中1になる保護者の方が選ぶ際に、中3の時に再編対象となるか、ならないかというところは、決めておかなければいけないので、もし、もっとなんか議論が必要だというのであれば、そこも、もう一回何か考え直さないで、ちょっとあまり学校現場は混乱させたくないの、まあ、やはりどこかでは決めなければならないなというふうには思っているところです。すいません、なんかちょっと、まとまらなくて、いろんなお言葉いただいたことは、すごく受け止めております。

⑩（八幡屋地域の方）1:42:36

- ・ お話は尽きないと思うんですけどね、なんかいろいろ言うてもなんかと思います。
- ・ 僕ね、今73ですわ、今小学校、八幡屋小、港中とって、輝かしい歴史と、ずっと素晴らしい人間も輩出して、もし無くなったり、統合されてきたら、新しい歴史ができるでしょ、新しい歴史と、新しい時代を作っていくのにね、私ら、もういてませんわ。見届けることが、できへんのが残念やと思っています。
- ・ だから皆さんも前向きにね、考えて、いい意見出して、進んで行ってもらえたならと思っているだけです。時間になりましたので、僕が閉めるわけちゃいますけども、もうそろそろ終わってください。